

千八百七十九年五月十一日刊行「カセット」新聞抄譯
 「ボンベ」港商法會議所報告

甲

大藏省
 翻譯課

1 1001



イ 4
A1239
1

千九百二十一年五月二十日刊行「ダット」新聞抄譯

大隈五十一
侯爵邸
大隈五十一
侯爵邸

大隈五十一
侯爵邸
大隈五十一
侯爵邸



商法會議所及饑饉救濟事務取扱委員

孟買商法會議所ハ曩ニ該會議所委員ノ編シタル成案ノ饑饉救
濟事務取扱委員ニ送ルヘキモノヲ審議センカ為メ金曜日ノ午
後ニ於テ臨時會ヲ開キタリ

本日出席シタル諸彦ハ議長「エム、モ」ラツト氏ト其他「チ」クツシ
氏「シ」モンズ氏「シ」エツチ、ビ「フ」オルベス氏「ビ」ゼル氏「ゼ」イ
ハム氏「フ」オルレスト氏「コ」ンベルス氏「ロ」ベルツ氏「カ」ルゼル氏「ジ
ヤ」ニ「シ」氏「エ」フ、マ「ジ」ユ「シ」氏「ジ」ヨ「シ」氏「ホ」ノ「ロ」シ「シ」氏等ナリ
議長ノ勸議ト「ビ」ゼル氏ノ賛成トヲ以テ「エ」イ「ビ」フ「オ」ルム「ジ」
氏及ヒ「チ」ボ「イ」ビ「ラ」ム「ジ」ゼ「イ」デ「ボ」イ「シ」氏ノ二人ヲ以テ社員ニ
撰入セリ議長ハ此會議ヲ開クニ當リテ余ハ我輩ノ今二名ノ土

人ヲ以テ社負ニ加入スルヲ得タルヲ賀スナリト云ハレタリ

議長ノ演舌

夫レ當會議所ヲシテ代議所ノ性質ヲ保タシムルハ余輩ノ冀望スル所ナルヲ以テ必ス土人一名ヲ以テ我カ委員中ニ加ハサルヘカラス故ニ右委員中ニ若シ其土人ノ欠負アルハ速ニ之レヲ補ハサルヘカラス

諸君ハ今猶ホ記憶スヘシ余輩ニ有名ナル土人四名ノ紳士ヲ以テ社員ニ加入シタルヲ辱ナク諸君ニ報告スルヲ得タリシカ今又タ「ラスボン」氏「エムピー」氏「エツチカムベ」氏「ゼエマクレ」氏ノ當會議ノ社員ニナリタキ旨ヲ申し越サレタルヲ諸君ニ報シ且ツ之レヲ加入セシムルナリ

蓋シ余ハ右諸氏ノ後未必ラス大ニ力ヲ盡シ我輩ノ利益ヲ謀ラルベキヲ確信スルナリ

余ハ今饑饉救濟事務取扱委員ノ為ニ編シタル此成案ヲ諸君ノ審議ニ付スルニ當リテ我カ委員ハ之レヲ編製スルニ充分ノ注意ヲ盡シタリト云フモ可ナリト思考スルナリ蓋シ此成案ハ充分我會議所ノ意見ヲ説明シタルカ故ニ饑饉救濟委員ノ之レヲ採用セラレトアラハ大ニ利益スル所アルヘキヲ信ス

夫レ印度ハ前三年間大饑饉ノ引續キタルカ故ニ其將來ノ政策ニ関シテ數多ノ議論ヲ生スルニ至レリ「ヒンドマン」氏「近來世間ニ有名ナル人ナリ」ノ如ク甚シク切論スルヲナキモ現今印度ノ情勢ヲ考スルニ更ニ理財ノ健康ヲ恢復スルノ政略ヲ行ナハサルハ勢ニ立至レリト云フモ可ナリ

夫レ國政施行費用ノ甚ク夥シキハ尋常一椽ノ人ノ知ル所ナルカ故ニ近來政府ヨリ羨スル所ノ政令ニ從テ萬事ノ費用ヲ節儉スルノ方法ニ據ルハ余輩ノ固ヨリ嘉ニスル所ナリ然ト雖モ鐵

道經路及ヒ掘割等ノ如キ有益ナル公業ハ是ヲ中止セスシテ猶
ホ開設スヘキモノト信スルナリ

現今印度政府ノ該公業ヲ維持スル能ハスンバ再ビ共立會社ノ
舊制ヲ再興スルモ可ナリ今既ニ開設スル所ノ鐵道等ノ如キ通
信運輸ノ便アルカ為メ饑饉ノ禍害ヲ減少シタル事少ナカラサ
ルニ非スヤ故ニ猶ホ該事務ヲ更張スルキハ此國ノ盛大ヲ増ス
最良ノ方法タルヤ明ナリ

印度ハ貧ナリト雖モ猶ホ國ヲ富マスノ原資ヲ有スルヤ其レ大
ナリ近來ノ經驗ニ由リテ余輩カ思考ニハ都府ハ勿論村落ノ貧
ナル農民ト雖モ將來未必ス富裕ニ至タルヘキヲ知ルナリ
近來世界中大ニ大洋運漕ノ便ヲ得タルヨリ其勢運賃ヲ廉ナラ
シムルニ至ルノミナラス日々各國ヲシテ食物ノ器具ノ價格ヲ
同一ナラシムルニ至レリ「ロゼンス」チルブツダバルリトニ於

テ小麦價格ノ差ハ終ニ運漕費ニ止マレリ蓋シ近來商賈競争ノ
甚シキヨリ其商品ニ負ハシムルノ雜費ヲ最小點ニ減スルニ至
レリ

故ニ英國農夫ハ英國殖民所及ヒ外國ヨリ輸入スル穀物及ヒ家
畜ノ價其本國ニ生産スルモノヨリハ稍廉ナルカ故ニ其輸入ノ
為メノ産業ニ苦シムモノナキニ非ラスト雖モ右殖民所ノ如キハ
以前ヨリ平均稍高價ヲ以テ輸出スルノ利アルニ非スヤ
果シテ余カ説ヲシテ正カラシムルハ印度ハ將來必ス隆盛ヲ
致スヘシト信スルナリ故ニ今ノ時ニ當リテ鐵道經路掘割等ノ
如キ公業ヲ開闢スルハ益々其富實ニ増スニ至ルヘシ而シテ
以テ西洋諸大國ニ向テ其國產ヲ交易スルノ國力ヲ養成スヘシ
夫レ電信氣船鐵道等ノ如キ神速ナル通信運輸ノ便タルヤ其影
響世界万国ヲ一致シテ一個ノ一大貿易社會トナスノ美果ヲ生

スルナリ萬國其國產ヲ交易スルニ當リテヤ必ス其間ニ三種ノ
通貨ヲ成ス即チ金本位金銀兩本位及ヒ銀本位ナリ
若シ右三種ノ世界中皆只一種ノ本位ヲ有スルトキハ我輩ノ
近未逢遇シタルカ如キ禍ニアラザルハト雖モ如何セン人生
ノ事實ハ迎遭坎軻意ノ如クナラス曩ニ金砲^砲生産ノ減少ト近未
日耳曼ニ於テ通貨ヲ改成シ大ニ金砲^砲ノ需要ヲ増シタルカ故ニ
該金砲ハ大ニ其價格ヲ騰貴セリ
然リ而シテ銀塊價格ノ下落ト近未銀塊生産ノ分量ノ増加シタ
ルヲアリト雖モ該銀塊ハ物價ニ對シテ猶ホ其本然ノ位置ヲ下
ラサルヲ見ル前五年間金銀兩貨幣ヲ基本トシテ編製シタル物
價比較表ヲ見ル時ハ我説ノ虚ナラサルヲ徴スヘシ通貨價格ヲ
大ニ變化スルハ從テ必ラス百事ノ利害ヲ變化スヘシ
故ニ當會議所ハ既ニ政府ニ向テ其變化アルヘキヲ告ゲリ是

レ最モ理財上ノ利害ニ関スル大事ナルヲ以テ余輩ハ皆政府ノ
其關係ノ大ナルヲ知テ以テ預メ良法ヲ備ヘラルヘキヲ信ス
金銀トノ價格ニ於テ前既ニ其平均相場ヲ變化セリト雖モ猶
ホ後來此上ノ變化ヲ生スヘキヲ確信ス夫レ金屬ハ他ノ物品ト
同シテ供給需要ノ理財上ニ由リテ支配セラルヘモノナリ
右ノ故ニ「ロト」チユスノ時代ニ當リテハ金銀平均相場ハ一ト
十三ノ割合ナリシガ「セリ」アスシ「サル」ノ時代ニハ一ト七半ノ
割合ナリ蓋茲軍ノ時ニ當リテハ一ト十ノ割合ナリシカ近未ニ
至リテハ即チ一ト十五半ノ割合ナリ然レモ現今ニ至リテハ一
ト十八半ノ割合ニ至レリ
抑モ現今貿易ノ繁榮ヲ害スルモノハ乃チ通貨價格ノ動搖トス
而シテ少ナクモ歐洲ニ大國ノ金銀兩本位ノ制ヲ為スノ望ミナ
キニ似タルカ故ニ銀ハ必ラス右ノ割合ニ落チサルヲ得ズ然レ

印度ノ如キハ現今猶ホ貧ニシテ金貨幣ヲ用ユルニ適セサ
シトヲ恐ルナリ且ツ通貨ノ改正ハ人民ノ困難ヲ故フヘキモ
ノニ非ラサルナリ
最キニ政府ノ実施シタル「コンシユル」トノ如キモ我輩ハ
其實地ニ成功アルモノトハ考ヘサルナリ其功ナキノミナラス
或ハ其需要ナキニ巨大ナル額數ヲ發行シテ却テ其害ヲ増セリ
故ニ余輩ハ舊東印度會社ノ舊方策ヲ以テ猶ホ之レニ勝サレリ
ト考フルナリ
蓋シ該舊方策ハ即チ一千八百六十年ヨリ六十一年ノ終リニ至
ルマデ「ボームトシユリ」(本國國幣)ヲ開テ幣ニ証券ヲ賣リ揃ケ
リテ証券ノ相場ハ時々變化スルモノニシテ引札ヲ以テ之レヲ
公告ス右會社ノ成立セシ時ニ當リ發行スル所ノ証券ハ毎年平
均一千〇五拾万圓ニシテ二千〇万圓ヲ超過シタルヲ見ズ

故ニ今「コンシユル」トノ發行タルヤ一億万圓ノ巨額ニ至
リ為ニ禍害ヲ増スニ至ルハ怪シムニ足ラス此國豐作ノ收納ア
ルニ或ハ饑饉ノ禍ヲ防キ豊作ノ道ヲ進メ國ノ隆盛ヲ致スニ必
要ナル公業ヲ開發スルニ至ルマデハ其禍害ヲ免カルニ能ハサ
ルナリ
然レモ余輩ハ今公業ノ開發ヲ強テ主張ス能ハス猶ホ此會議所
ノ久シク主張シタル所ノ問題アリ即チ運輸稅ノ廢棄是ナリ
夫レ海濱ヨリ内國ニ運輸シ内國ヨリ海濱ニ運輸スル物品ニ課
スル「モノセル」河近傍ノ小都府ノ稅ハ我カ輸出入ノ貿易ヲ害ス
ルヤ甚タシ此問題ニ関シテハ倫敦「タイムズ」新聞ニ於テモ種々
ノ評論アリシモノナリ余ハ政府カ幸ニ我輩ノ議論ヲ採用シ必
ラス貿易ノ障害物ヲ除去スルノ政策ヲ立ツヘキヲ信スルナリ
夫レ政府カ人民ノ事業ニ干涉スルハ或ハ幸ニ益スヘキ「ア

モ又タ此レカ為メ大害ヲ生スヘキトモ少ナカラサルナリ今日
既ニ實行スル所ノボクエルアクトトノ如キハ人民ヲ益スルノ良
法ニ非サルヤ明カナリ

其新成案ノ我會議所ノ審議ニ付セラルル中ハ其議決ニ関シテ
世人ハ必ラス我會議所ノ考案ヲ注意スヘキヲ信スルナリ諸君
ハ我輩ノ曩ニ英領印度ニ其實施セラレシトヲ建議シタルニウ
フアクトリノアクトニ関シテ我會議所ノ意見ヲ開陳シタルヲ
見ラレタルヘシ

余ハ右ノ政畧ヲ非難スルモノ我カ商法會議所ノ社員中多數ニ
居レリト云フモ可ナリト考フルナリ印度ヲレテ必ラス「フアク
ト」ノアクトヲ實施セシムルトスル中ハ必ラス是レヲ女子ト
小兒ノ保護ノミニ限ラサルヘカラス

既ニ是ヲ實施スル中ハ其施行ノ方法ニ関シテ精密ノ注意ヲ為

サ、ルヘカラス蓋シ諸新政策中最モ其ノ利害ノ判然ナラサル
政策ナルカ故ナリ

車之事業ハ猶ホ未タ幼穉ナリ故ニ無益ノ限制ヲ加ヘテ益々之
レヲ衰ヘシムルニ至ラシムヘカラス諸君ヨ右ニ陳述シタルモ
ノハ乃チ余カ意見ナリ前年ノ如キ饑饉ノ再ヒ此國ニ生スル
ナキヲ保シ難クレハ若シ其不幸ニ遭遇スル中ハ賢明ナル官吏
ハ預メ救濟ノ政策ヲ定メ難渋貧困ノ人民ヲ救恤アラシムヲ願
フ而シテ其政策ヲ定ムルヤ我輩ノ主張シタル方法ヲ採用アラ
シムヲ冀望ス

ビゼン氏ノ演舌

余ハ喜テ今議長ノ演舌セラレタル論旨ヲ賛成ス今議長ノ論陳
サレタルモノト此報告トニ於テ完全精密ニ主義ヲ記載シ論旨
ヲ辨シ尽シテ復タ餘蘊ナケレハ余輩今昔々論スル點ナキト考
フルナリ

昨晚此議題ヲ賛成シタルカ如ク此報告ニ関シテ余ハ少シモ意
見ヲ異ニスル所アラサルナリ余ハ實ニ精密ニ再三此報告ヲ讀
ムリ而シテ其議論ノ能ク余カ考フル所ニ符合スルヲ以テ悉ク
是レニ同意スルナリ

抑モ余ハ既ニ久シク公業開發ノ費用ヲ無益ノ費用ト稱スルノ
議ニタルヲ知レリ英國人民ノ公業ヲ開發スルヲ喜ハサルモノ
ハ皆鐵道掘割ノ如キ公業ハ英國ニ於テハ人民中富豪ナル財主
ノ助ケヲ以テ興スヘシト雖モ此國ハ英國ト異ナリ斯ノ如キ事

業ヲ興サント欲セハ政府ノ之ヲ爲サハルヘカニサルノ事實
アルヲ知ラサルニ似タリ

英ニ於テハ則チ鐵道造船所ヲ建築シ及ヒ其他ノ大事業ヲ興
スニ當リ財主アリテ之ヲ助ケト雖モ印度ニ於テハ右ノ如キ
公業ヲ興スニ決シテ私財ヲ得ル能ハス故ニ政府ノ之ヲ興ス
ニ非サレハ終ニ其業ヲ興スノ期ハ蓋シ之レ非サルナリ

故ニ印度ノ公債(公業ヲ開發スル爲ニ借入レタル公債)ト他國ノ
公債ヲ比較スルハ例之ハ英國ト比較スルハ英國ノ私立會
社ノ公業開設ニ費用シタル巨大ノ金額ヲ算入セサルヘカラス
如何トナレハ此國ニ於テハ政府自ラ起シ、ルベカラサルノ公
業ト雖モ英國ニ於テハ私立會社ノ其釀金ヲ以テ開設スルカ故
ナリ

此鐵道開設主義ニ関シテハ英國人ノ真理ヲ知ザルモノ、多キ

ヲミル余ハ前年水理主義ニ関シテ英國ニ開タル會議ノ報告ヲ
讀ミ議負中ヨク印度ノ國情ヲ知り經練ト事物穿鑿ノ方アル譽
ヲ有スル人ニシテ猶ホ且ツ鐵道ノ全ク無益タルヲ論シ就中鐵
道ハ印度ニ利アラズシテ却テ害ヲ生セリト云フタルモノヲ知
レリ而シテ又タ其人ノ說ニ若シ其鐵道ヲ建築スルノ費用ヲ以
テ掘割ノ開設ニ用ユル時ハ其功績猶ホ鐵道ノ上ニアルヘシト
論陳セラレタルヲ見テ愕然其論ノ當ヲ失スルニ驚ケリ
即チ右議負ハ余ノ平生尊敬スル所ノ紳士^シヨンブレイト氏ナ
リ蓋諛氏ハ其時ニ當リテ全クアウガルコット^シ氏ノ鼻息ヲ仰
テ立論サレタルモノニ似タリ余ハ慥ニブレイト氏ノ右會議ニ
於テ多クノ言論ヲ費シ鐵道開設ノ費用ハ無益ノ費用ナルヲ
論陳サレタルヲ記念ス
然ルニ諛氏ノ其論說アリシ後數月ヲ經サルニ右鐵道ノ為メ此

國歲入上ニ不足ヲ顯ハスヲナキヲ見ルニ非ラスヤ此國ニ在留
シテ能ク其國情ヲ知り且ツ其國內貿易ノ情況ヲ知ル所ノ人ハ
皆右鐵道ヲ建築シタルヲ為メ生シタル國益ハ鐵道會社ノ獲得
シタルカ如キ些少ナル利益ノ比ニ非ズ間接ニ生シタル利益ハ
其直接ノ利益ニ起ユルヲ遠キヲ知ラル、モノアラン
諸國ノ内鐵道ヲ架設スルノ地方ヨリ產物ヲ買フ人ハ知ラルベ
シ鐵道アルガ為メ此國ニ於テ中央市場開設シ歐人未テ產物ヲ
モ市場ニ買ヒ其地ノ農夫ハ其產物ヲ賣ルニ利大ニシテ歐列ニ
於テ賣捌クノ價格ト唯運送費ノ差アルノミナリト云フヲ
夫レ鐵道電信ノ利益タルヤ商賈ヲ鼓舞シテ益ク貿易ヲ盛ニセ
シム是レ獨リ商人ノ利益ナルノミナラズ印度一般ノ利益タル
ヤ明ナリ^抑抑チ鐵道ヲ架設スルノ地方ニ於テハ物產ヲ歐洲ニ於
テ賣捌キテ得ル所ノ價格ヨリ運送費ヲ減シテ其殘額ハ盡ク農

夫ノ得ル所ナリナリ

余ハ此報告ヲ一讀シテ其中ニ中央地方ノ委員ノ發行シタル報告ヲ記載スルヲミル即チ右報告ニ於テ該委員ノ「チヤキスハル」地方ヨリ小麦、米、亞麻仁ヲ遠ク各地方ニ運送シ馬鹿ラシク廉價ヲ以テ「ナグボル」ベラル及「ボンバ」ヨリ米ル所ノ小賣商賣ニ賣渡シクル事ヲ掲載セリ是レ他ナシ鐵道ヲ架設セサルノ地方ハ其物産ヲ賣捌クヘキ市場ヲ見出ス能ハサルカ故ナリ

故ニ印度ニ於テ運輸ノ便アラサルカ為ニ屢々産物ノ國內ニ在テ腐敗シ全ク其價格ヲ失フニ至リシ「アリ」ト云フモ正當ノ論ナリト信スルナリ

又ノ此報告ニ曰ク鐵道ヲ開設スルハ右ノ如キ害ヲ除去シ印度ヲレテ物産ヲ賣捌ノ市場ヲ得セシメ荒漠ノ地ヲシテ悉ク耕耘ノ利ヲ得セシムルニ至ルヘシト雖モ若シ其鐵道運賃ノ廉價

ナルニ至ラサレハ決シテ其使用ヲ為サ、ルヘシ

近年ニ三ノ物品運輸ノ賃銀ニ関シテ世論ノ「ジ」アイ、ピ「鐵道ノ運賃不廉ナルヲ責メタルヨリ遂ニ稍共運賃ヲ減省シ今適當ノ價格ニ至リシハ明ナリト雖モ此報告中猶ホ小麦及油菜種ニ関シテ聊カ論スル所アルヲミルニ此運賃ノ減縮ハ容易ニ是ヲ得タルモノニ非ラスレテ數多ノ爭論ノ結果ナリ

余ノ今此鐵道運賃主義ヲ演舌スルモノハ我カ委員及ヒ社負ヲシテ此主義ヲ忘レス帝ニ「ジ」アイ、ピ「鐵道會社ヲ論争スルノ思念ヲ保タレシ」カ為メナリ蓋シ該鐵道ハ當時余輩ノ物産ヲ買入ル、ノ地方ト運輸ノ為メ大ナル原由ナルヲ以テナリ

余ハ切ニ我カ委員ノ帝ニ意ヲ「ジ」アイ、ピ「鐵道會社ニ注キ此會社ヲシテ今一層共運賃ヲ減縮セシムルノ必用ニ至ラシメシ「ヲ冀望ス而シテ該會社ハ其私利ヲ營ンテ公利ヲ省リミズ小

麦ノ運賃ヲ減省セシモノ一ニノ紳士曾テ中央地方ニ於テハ運送
費ノ高價ナルカ為メ之レヲ他ニ運搬スル能ハサルヨリシテ巨
量ノ小麦共地ニ腐敗スルモノアルヲ告クルニ至リテ漸ク共
運賃ヲ減少セリ
右會社ノ小麦ノ運賃ヲ減少セルハ則チ獨リ世論ノ其高價ナル
ヲ攻撃スルノ結果ナリ余輩ノ又タ不公正ナル運賃ヲ廢棄セ
シメシハ同シク許多ノ辨論ヲ費セシ結果ナリ
其不正ナル運賃タルヤ該會社ノ正當ノ高價ヲ起テ不公正ノ運賃ヲ
貪ボルカ為ニ一噸ニ付キニル^ルト^ルス^ル餘ヲ^ルボンベ^トニ於テ拂
フニ至レリ余ハ會議所ノ委員カ棉花ノ運賃ニ関シテ注意セラ
レシ^ルト^ル冀^ス小麦種物ノ運賃ハ減少シタレ^ルニ^テ此棉花ノ運賃ハ
之レヲ十年前ニ比較スレハ猶ホ高價ナリ蓋シ十年前ノ棉花ノ
價直ハ今日ヨリニ倍ナリレナリ

「オームロチ」ヨリ四百三十英里ノ處ノ棉花ヲ運送スルニ一噸
ニ付キ四十三^ルト^ルプ^スノ運賃ヲ拂ヘリ是レ「マシユ」氏^氏鐵道^{鐵道}「ビ
ル、ビー」及シ「アイ鐵道」ノウヲツドワ^ンヨリ當港^港（按スル^ル港^港）マ
テノ間ノ運賃ノニ倍餘ナリ而シテ「ウヲツドワ^ンヨリ當港マデ
ノ路離ハ「オームラチ」ヨリ當港マデノ^路離ヨリ長キモ短カイ
ヲナルナリ
余ハ議長ノ運輸税ノ不正ナルヲ演舌セラレタルヲ聞キ又タ此
報告ニ於テ是ヲ論陳スルアルヲミテ其我輩ノ意見ニ符合スル
ヲ喜ブナリ此運輸税主義ノ最モ我委員ノ須臾モ忘ルヘカラガ
ルノ問題ナリ此主義ニ関シテハ屢ク政府ニ建議諫争スルニ非
サレハ彼ノ「モフセル」ノ諸都府ハ益多ク運送税ヲ出入ノ商品ニ
課スヘシ
若シ今「ボンベ」ニ於テ「モフセル」ニシテ「バルマクド」^ド「モフセル

諸府收税條例ヲ實行スルニ至ル時ハ余ハ百方カヲ尽シ「ボンベ」政府ニ付與シタル無限ノ權ニ向テ諫争スヘシ蓋シ「モフセル」諸都府ハ「ボンベ」政府ノ許可ヲ得テ課税スルモノナルカ故ナリ
立法院ノ許可ヲ得スレバ「税」ヲ課スルカ如キ無限ノ權ヲ「ボンベ」政府ニ付與シタルハ甚奇怪ノ處置ト信スルナリ然ト雖モ如何セン「ボンベ」政府ハ既ニ其權カヲ有セリ既ニ之レヲ有スルトスル時ハ即チ當港貿易ノ保護者タル該商法會議所ハ能ク事物ノ情況ヲ注意シ該政府ニ歎願シテ其權威ヲ不正ニ用ヒサラシムルヲ要セサルヘカラス

余ハ又タ此報告ニ他ノ一種ノ運送税ニシテ我輩ノ多年其不正ナルヲ論陳シタルモノヲ記載スルヲミル即チ「ボンベ」コッソトシフラウヅアクト「ボンベ」棉花詐偽検査條例是ナリ余ハ右

ノ税ニ関シテ喋々論陳スルモ其益ナカラシトテ恐ル如何トナレハ政府官吏ノ是レヲ主張スルモノ多クシテ容易ニ動かサレヘカラサルカ故ナリ

然リト雖モ該税ハ不正不義ノ税タルヤ明カナルカ故ニ余輩ハ其廢棄ヲ諫争スルノ勤メヲ多クシヘカラス其税ノ害タルビラリスヲ以テ之レヲ例センビラリスニ於テハ棉花ヲ以テ第一ノ収納トス即チ之レヲ包物ニシテ之レヲ賣リ出ス是レ印度ヨリ輸出スル棉花ノ最上ノ品ナリ我輩ハ之レヲ内國ニ買フトイヘモ「偽詐棉花審査官」コッソトシ「ラウド」ノ馬ニ一包ニ付キニ「アンナ」スノ税ヲ拂フニ非サレハ之レヲ「ボンベ」港ニ船積ナスコトヲ得サルナリ

該検査官ハ棉花ノ一包ヲモ検査スルニ非ラス只々其包數ヲ算シテ課税スルノミ

余ハ固ヨリ斯ノ如ク切ニ同一ノ主義ヲ反復スルヲ好ムモノニ
非ストイヘ氏斯ノ如ク切論スルニ非サレハ其効ヲ得ヤルカ故
ニ已ヲ得スレテ斯ク冗長ニ至リシナリ諸君願ハクハ此レヲ恕
セヨ

余ハ此報告ヲ讀ンテ其議論ノ精密完全ニシテ俄タ餘蘊ナキカ
故ニ別ニ意見ヲ陳述スルモノアラサルナリ余ハ今此論ヲ終フ
ルニ當テ再ヒ言ハン余ハ眞實ニ右報告ニ同意シ其採用ヲ建議
サレタル議長ノ論旨ヲ喜ンデ賛成スルモノナリ

「エフ、マジュ」氏ノ演舌

議長及ヒ諸君ニ向テ今説ク所アラントス此報告ニ記載スル所
ノ印度ニ於テ今最緊要ノ事業ハ鉄道掘割ノ如キ此國內部運輸
ノ道ヲ開クモノアリトイフノ條件ハ此會議ノ獨リ之レヲ是認
スルノミナラス此國人民ノ甚ク是認スル所ナルヘシト信ス
且ツ印度政府ノ官吏及ヒ當「ボンベイ」ノ牧守ノ皆公業開發ノ説
ニ同意シテ經路掘割鉄道等ヲ印度ニ開設スルニ尽力セラレ、
ハ余輩ノ喜ブ所ナリ
此國ノ内部ヨリ「ボンベイ」港ニ至ル間ニ大道ノ乏分ナラサルカ
為ノ運輸ノ利ヲ欠キ人民ノ不便タルヤ少ナカラストイヘ氏今
我輩ノ久シク希望スル所ノ鉄道ヲ其間ニ建築スル時ハ必ス將
来無限ニ貿易上ノ繁榮ヲ致スヘシト信スルナリ
數年前「ボンベイ」港ヨリ「デルヒ」ニ至ルマデノ間ニ鉄道ヲ建築ス

ハキヲ主張スルニ當リ其時ノ「ポレバ」ノ牧守「ハートル
フレヘル」氏ノ曾テ云ヘル「アリ若シ右ノ鐵道ヲ建設スルヲ得
ルハ必ラス之レカ為メ「ボンベ」港ハ上印度ノ人民二千四百
万人ノ港トナルニ至ルベシト是レ則チ鐵道ノ國ニ益アルヲ論
シタルモノニアラスヤ
余ハ又「アメダバルド」ヨリ「テルヒ」ノ間ニ新鐵道ヲ架設スル
ノ企アリテ今既ニ其業ニ着手セルヲ賀スルナリ余ハ曾テ十四
日前「アノダバツド」ノ北ヨリ今建設スル所ノ新鐵道ニ從テ數英
里ヲ歩行シ其鐵道建築ノ狀況ヲ見タルニ鐵道ハ狹幅ノ方ニ由
レリト雖モ橋梁ノ如キ他ノ工作ハ皆廣幅ノ制ニ由リテ此ヲ緊
固ニ作爲セリ之レ後未修覆ノ費用ヲ省ブカンカ為メノ策畧ナ
リ然レ雖モ余ハ茲ニ至リ官有鐵道建設事務取扱委員ノ鐵道ヲ
建設スルニ狹幅ノ制ニ由ルヲ惜シムナリ其故如何トナレハ狹

幅ノ制ハ到底節候ノ制ニ非サルカ故ナリ蓋印度政府ハ「ゼ」子ラ
ルスト「チエ」氏ノ教ニ從テ鐵道ヲ建設スル位置ノ如何ヲ問
ハス狹幅ノ制ヲ以テ最良ノ制ト信スルニ似タリ
該政府ノ斯ノ如キ鐵道ヲ建設スルヤ勿論建設ノ費用少シキ廉
價ナル鐵道ヲ設ケント欲スル心ヨリ出ツルハ言ヲ待タス然レ
モ惜ムラクハ其意匠ヲ讀マサリシモノナリ
余今茲ニ英國ノ有名ナル土木方ニシテ殖民事務局ノ土木評議
員ナル「ダレゴリ」氏ノ云ハレタル談話ヲ陳述スヘシ
同氏曾テ殖民所鐵道ノ建築ニ付テ見積ヲ命セラレタル「アリ
同氏即チ其鐵道ハ廣幅ノ制ニ由ルヘキヲ上申セラレタリ然
ルニ政府ハ其建築スル所ノ鐵道ハ狹幅ノ制ニ由ラサルハカラ
スト奪セシカ故ニ斯ニ於テ同氏ハ狹幅ノ鐵道建築ノ見積書ヲ
編シ之レヲ報告セラレタリ

即チ狭幅ノ鉄道ハ之レヲシテ其運送ノ事業ニ適センガ為ノニ
ハ必ラス數多ノ支線又道ヲ設ケサルヲ得ス故ニ此位置ニ鉄道
ヲ建築スル時ハ狭幅鉄道建築ノ費用ハ却テ廣幅鉄道建築ノ費
用ヨリ稍々大ナルニ至ルヘシ
此國即チ印度ノ鉄道ニ又、斯ノ如キモノアルヲミルナリ然リ
ト雖、氏鉄道ハ尽ク廣幅ノ制ニ依ルヘシトイフニ非ラス其地方
ニ由リテ又、夕狭幅ノ鉄道ヲ良シトスルモノナキニシモ非ラス
印度ニ於テ狭幅ノ鉄道ヲ架設スルニ最モ適當ノ地方モ亦、少
ナカラス譬ヘハ余ノ其建築ノ事業ヲ監督スル所ノ「パロダス」
「ト」ニ於ケル岐路三十六英里ノ線路ハ其幅ニ「フ」ト「六」イ「シ」
ニシテ其建築ノ費用ハ一英里殆二万「ル」ト「ビ」スノ鐵路ノ如キ
是レナリ

此鉄道ハ「ナ」ル「バ」タ「河」ト不毛ナル藪地ノ間ノ地方ニ架設シタル

モノナリ故ニ其運輸事業ノ隆盛ナラサルヲ知ル而シテ其建築
ノ費用ハ狭幅鉄道建築ノ費用ノ最廉ナルモノ、三分ノ一ヲ超
ヘズ

然レ、此地方ニ於テハ即チ斯ノ如キ小鉄道ヲ以テ其運輸ノ事
業ニ十分ナルヲ知ル、該小鉄道ノ其地方ニ適スルノミナラス土
木評議負「モ」レスウ「タル」ユ「氏」及ヒ「レ」ン「ダ」ル「氏」カ政府ノ為ニ其建
築ノ方法ニ付テ最良ノ方策ヲ用ヒラレタルカ為メ一層其便ヲ
増セリ

右狭幅制ノ鉄道ノ果シテ、此地方ニ適スルトキハ、西氏ハ此制ヲ
以テ各地方鉄道ノ建築ニ採用スヘシトイヘ、余ハ右西氏ノ此
制ヲ以テ廣幅ノ鐵路ヲ架設スヘキ地方ニ用ユヘシト云ハレシ
ヲ聞カサルナリ、余固ヨリ官有鐵道土木方ノ有名ナル人ヲ知ル
ト少ナカラスト、雖、氏一人トシテ「ラ」ジ「プ」タ「ナ」鐵道ニ狭幅ノ制ヲ

用ユヘシト云フモノアルヲ聞カルナリ
右土木方ノ最モ老練ナルモノ、曾テ余ニ告ゲシテアリ夫レラ
ジブタナ鉄道ニ狹幅ノ制ヲ用ユルハ恰モ象ノ齒ヲナサシムル
ニ驢馬ヲ用ユルト一轍ナリト
故ニ前ニ開陳セシカ如ク印度政府カ此制ヲ用ユルノ所以ノ意
匠ヲ知ルニ苦シムナリ我輩ハ曾テ印度政府ノ賢明ナル宰相サ
ーアンドリユークラーク氏ノデルヒートボンベールノ間ニ廣同
幅ノ鉄道ヲ架設センコトヲ主張サレタルヲ知ル
又タ英國政府ノ鉄道掛首長ビウランドダンベル氏ノボンベール
ヨリバランプールノ間ニ廣幅ノ鐵路ヲ架設スヘキコトヲ建議サレ
タルヲ知ル蓋シビユウランドダンベル氏ハ鉄道建築ノ方法ヲ
熟知シタル人ニシテ曾テ印度鉄道建築ノ成功ニ付テハ該氏ノ
功アリシヤ少ナカラサルナリ

又タ余輩ノ知ル如クボンベール前代ノ諸牧守及テ其輔官ハ皆同
廣幅鉄道ノ架設ヲ主張サレタルニ非スヤ而シテ我輩ハ未タ曾
テ狹幅ノ鉄道ヲ架設スルコトヲ主張シタル人アルヲ聞カス
右狹幅制ヲ主張スル人只二人アリ即チ其一人ハ狹幅鉄道主張
者ノ巨魁タルセチラルスタラツチエー氏ニシテ其一人ハ有名
ナル紳士ニシテ印度殖民事務局書記官トレントン氏ナリ
然レ氏該氏ノ鉄道建築主義ニ干渉シタル所ハ唯土木方ノ會議
ニ於テ鉄道ノ廣狹主義論題ニ至リセチラルスタラチー氏ヲ贊
成シタルコトハ英國ニ於テ該事業ニ付テ最有名ナル紳士ニ向テ
及對論ヲ出シ無益ノ辨論ヲ費シタルコトノミナリ然レ氏甚タシ
ク駁論サレテ公衆ノ訾笑ヲ招キタルニ過キサルナリ
我輩ハ今當高法會議所ヨリ建議セラレ同廣幅ノ鉄道ヲ建築シ
東印度鉄道トボンベール鉄道ト連絡セラレントコトヲ希望ス

精密ニ今論述シタル廣幅鐵道ノ便ヲ知ラント欲セハ「アナン」
氏ヨリ「ラトラム」氏ニ送ラレタル此會議所ノ狹幅鐵道取摺論ヲ
ミルヘシ
中央印度ニ鐵道ヲ建築スルハ其甚容易ナルヘシト信スルナリ
之ヲ建築スルキハ為ニ必ス「ボンベ」ト「オジャラ」ト及ヒ「インド
」ト「エグ」ラ地方ノ間ニ運輸ノ便ヲ生スヘシ上ニ開陳シタル些少
ノ鐵道ヲ建築スルモ余輩ハ必ラス西印度貿易ノ繁榮ヲ致シ「ボ
ンベ」ト「ラシ」テ「亞西」第一等ノ港トナシ英領印度ニ於テ最モ繁
華ナル都府トナルベキヲ信スルナリ
時ニ議長右建議ノ決ヲ取りシニ之レヲ採用スルヲ多數ニ決セ
リ
然ル時會散ス

鐵道救濟取扱委員長官ノ考案及高法會議所ノ答詞

第一
曩ニ印度政府ノ發シタル財政議定ヲ見ルニ曰ク印度ハ限リテ
キ富國ノ原質ヲ有スル國ニシテ人間ノ使用ニ供スヘキ凡百ノ
物品生産スルヲ得ヘシ
然リト雖モ開明ノ日猶ホ淺ク人民貧困ニシテ貿易猶ホ未タ隆
盛ナラサルカ故ニ英國ニ於テハ輸出入品ノ價格ヲ以テ其全人
口ニ割リ付ケレハ一人ニ付キ二十封度ニ當ル然ルニ印度ニ於
テハ總カテ「シリ」ニ割ル則チ英國ノ四十分ノ一ノ割合ナ
リ
英國ニテハ葡萄酒、燒酎、茶、烟草ノ如キ物品ノ海關稅ノ收入ハ一
人ニ付キ十「シリ」ニ當ル然ルニ印度ニ於テ許多ナル有稅
品ノ海關稅入ヲ合シテ總ニ一人ニ付キ三「ペン」ニ當ル乃チ又

シ英國ノ四十分ノ一ニ過キサレナリ

第二

然リト雖且又夕他ノ點ヨリ印度財政ノ情况ヲ觀察スルハ既ニ開設シタル諸事業ニ於テ將來貿易上ノ繁栄ヲ致スヘキ非常ノ徵考ヲ現レ来リシヲ三ノ今衆人ノ能ク知ル所ノ一例ヲ擧ゲルヲ左ノ如シ

一千八百七十二年會計年度ヨリ一千八百七十七年會計年度ニ至ル五年間ニ増加シタル鐵道ノ所得ハ則チ一千八百七十二年ニ於テハ七百五十万封度ナリシヲ一千八百七十八年ニ至リ増シテ一千三百万封度トナレリ

輸出貿易モ亦夕現今ニ至リ非常ニ増進セリ其増進スルノ勢ハルヤ我輩ヲシテ印度ハ將來非常ニ貿易上ノ繁栄ヲ致スヘキノ冀望ヲ起サシムルニ足ル例之ハ小麦ノ輸出ハ一千八百七十五

年ニ於テ其價格七十七万五千封度ナリシガ一千八百七十七年ニ至リニ百七十万封度ニ増セリ

茶ノ輸出ハ一千八百六十一年ニ於テ其價格十九万二千封度ナリシガ一千八百七十七年ニ至リ七十九万封度ニ増加セリ

種物ノ輸出ハ一千八百六十一年ニ於テハ其價格五十万ポンドナリシガ一千八百七十七年會計年度ニ至リ六百七十五万封度ニ増セリ

コツフモ¹ノ輸出ハ一千八百六十一年ニ於テ其價格八万四千封度ナリシガ一千八百七十六年ニ至リ一百五十万封度ニ増セリ

棉花ノ輸出ハ三百五十万封度ヨリ増シテ一千三百二十五万封度トナレリ

現今輸出スル所ノ綿貨ノ價格ハ一百七十五万封度ノ多キニ至

ル英國ヨリ輸入スル所ノ物品モ亦大ニ増セリ一千八百五十年會計年度ニ英國ヨリ輸入シタル物品ノ價格ハ八百二十五万封度ナリレガ一千八百七十五年會計年度ニ至リ三千零五十五万封度ニ増セリ

英國ノ輸出シタル物品ノ價格ハ一千八百五十年會計年度ニ於テハ八百万封度ナリシオ一千八百七十五年ニ至リ二千八百万封度ニ増セリ而シテ輸入ノ總額ハ一千八百三十四年ハ六百万封度ナリシオ一千八百七十五年ニ至リ四千四百万封度ニ増セリ

第三

又夕此國ニ於テ貿易ノ將來ニ隆盛ニ至ルベキ他ノ徵考ヲ擧ゲルニ一千八百六十一年以來此國ニ開業シタル合本會社ハ八百戸ニ下ラサルナリ其中一百九十四戸ハ銀行ニシテ三十七戸ハ

保險會社ナリ又夕一百五十二戸ハ車業會社及ヒ活版局ニシテ一百四十七戸ハ植産會社ナリ一百八十三戸ハ高法會社ナリ此ニ由テ以テ既ニ貿易ノ隆盛ナルト工業ヲ提起センカ為メ既ニ非常ノ財本ヲ卸シタルヲ証スルニ足ル

第四

上ニ開陳スル所ノ事實ニ由リテ此國ノ貿易ハ上下ノ一致協力ニテ之レヲ提起スルニ從事スルハ後未必ラス非常ノ隆盛ヲ致シ此國工業ノ体面ヲ改ムルニ至ルヘキヲ信スルナリ今之レヲ譬フルニ印度ニ於テ今其輸入スル所ノ綿貨ノ價一千七百万封度ノモノヲ自國ニ於テ製造スルヲ得ハシト假定セヨ然ルハ之レカ為メ必ラス此國全國ノ勞者ノ俸給ヲ増スノミナラヌ又夕若シクハ外國貿易ノ健康ヲ變化スルニ至ルハ是レ則チ余輩ノ希望スル所ノ變化ナリ如何トナレハ此國ノ貧民ヲシテ

生活ノ道ヲ得セシムルニ至ルカ故ナリ

第五

此ニ由リテ之レヲ觀ルルハ此困飢饉ノ禍害ヲ防キ或ハ之レヲ
少ナカラシムル良法ハ其何タルヤヲ論スルニ當リ余輩ハ貿易
ヲ隆盛ナラシムルト新工業ヲ提起スルトヲ以テ第一ノ良法ト
云ハサルヲ得ス故ニ余輩ハ今一步ヲ進メテ能ク工業貿易ニ熟
達スルノ人ニシテ其將來ノ盛衰ヲ觀察スルノ智力アリ紳士ノ
將來繁榮スヘシト稱スルノ高業ヲ開示シ又夕鉄道ノ如キ或ル
工業ニシテ自然ニハ盛大ニ至ラサルヘシト雖モ政府ノ之レヲ
保護スルルハ非帝ノ隆盛ニ至ルベキ事業ヲ陳述セサルヲ得ス
例之ハ南印度ノ地方ノ如キ鉄ヲ産スルノ夥多ナリ屢々其採掘
ニ從事セリト雖モ一ニノ理由ヨリ其効ヲ果サス然リト雖モ政
府自ラ其財ヲ投シテ其採掘ニ從事スルルハ必ス其成功ヲ致ス

ヘシト信スルナリ

「バツク」氏ノ經駁ニ依ルルハ烟草生産ノ事業モ政府之レヲ保護
スルルハ又夕大ナル國益ヲ生スヘシト信ス「バツク」氏ノ説ク所
ニ依レハ烟草ノ生産ハ諸物品中最有益ノモノナリ又夕其需要
ノ限リナキカ故ニ烟草生産ノ事業ハ久シカラスシテ最大ノ隆
盛ニ至ルヘシト云ヘリ

第六

上ニ開陳シタル主義ハ余輩ノ未夕其利害ヲ質セサル所ナリ然
ト雖モ此主義ノ問題ニ関スル答詞ヲ得ルニハ之レヲ諸官省ニ
廻達スルヨリハ寧ロ商法會議所等ノ如キ一ニノ貿易會社及ヒ
貿易ノ經練ヲ有スル一ニノ紳士ニ質問スルヲ以テ良策ト信ス
故ニ余ハ此問題ヲ以テ委員ノ審議ニ付ス而シテ我カ同勤諸君
ノ各共直接ニ干涉スル地方ニ於テ如何ナル商業及ヒ製造ヲ起ス

ヘキカ又タ其商業製造ハ如何ナル影響ヲ勞者ニ及ボスヘキカ
又タ如何ナル工業ハ政府ヨリ直接ノ保護ヲ得テ隆盛ニ至ルヘ
キカノ條目ニ関シテ其意見ヲ開陳シ以テ各共適當ノ良法ヲ定
メラレンコトヲ希望ス

一千八百七十八年十月十日

飢饉救濟事務取扱委員ノ長官ニ贈ル

一千八百七十九年五月八日 ボンバー 商法會議所

拜啓商法會議所ハ貴下ノ贈致セラレタル十月十日ノ成果ヲ審
議セリ而シテ今謹テ其意見ヲ開陳スルノ光榮ヲ有スルナリ
抑モ我商法會議所ハ印度政府ノ發シタル財政議定ニ印度ハ限
リナキ富國ノ原質ヲ有スルノ國ニシテ人間ノ使用ニ供給スベ
キ凡百ノ物品ヲ生産スルヲ得ヘキ良土ナリト雖モ開明ノ日猶
ホ淺ク人民皆貧困ニシテ貿易猶ホ盛ナラサルカ故ニ英國ニ於

テハ輸出入品ノ総額ヲ以テ之レヲ全人口ニ割り付クレハ一人
ニ付二十封度ニ當レリ然ルニ印度ニ於テハ總力ニ十シルリシ
ク即チ四十分ノ一ナルニ過キスト記セルハ真ニ然ルヘキヲ知
ルナリ夫レ此國ノ斯ノ如キ情況ニ至リシモノハ全ク鉄道掘割
ノ如キ内國運輸ノ便ナキニ由ルモノナリト信スルナリ

我商法會議所ハ四十年前以來既ニ政府ニ向テ屢々公業ヲ起ス
コトノ緊要ナルヲ建議セリ如何トナレハ公業ノ隆替ハ貿易ノ盛
衰ニ関スルコト大ニシテ此國ノ人民ノ幸福ヲ増シ且ツ人間一般ノ
利益ヲ謀ラント欲セハ該事業ヲ外ニシテ他ニ道ナキヲ知ルカ
故ナリ

英國ノ輸出入ノ額高ク其人口ニ割付ケタルモノヲ以テ印度ノ
輸出入ノ額高ク其人口ニ割付ケタルモノト比較スルハ或ハ其
差ノ大ナルヤ驚クヘキカ如シト雖モ若シ印度ノ鉄道及ヒ經路

然ニシテ怪ムニ足ラサルヲ知ルベシ
 英國ハ其面積十二万二千五百五十万方英里ニシテ其開設シタ
 ル鉄道ノ里數ハ一万六千八百七十二英里ナリ又夕英國經路ノ
 多キハ言ヲ待タズ
 右ニ及シテ英領印度ハ其面積一百四十八万一千八百六十六方
 英里ニシテ鉄道ノ里數ハ總ニ七千三百二十六英里ナリ而シテ
 其經路ノ少ナキヤ為メニ產物ノ毎年野ニ腐敗スルニ至ルモノ
 數千噸ヲ以テ計フ是レ則チ市場ニ運輸スヘキ便ナキカ為メナ
 リ然リト雖モ英領印度ノ輸出入ハ金銀共ニ其額高一千八百五
 十三年ニ於テ三万八千四百二十二封度ナリシカ其後鐵道ヲ建
 築シタルカ為メ一千八百七十七年ニ至リ一億一千三百九十一
 万九千〇十八封度ニ増セリ

我輩ハ今斯ニ一千八百五十三年ヨリ七十七年ニ至ル間ノ印度
 ノ輸出入ノ歲額ヲ掲載スルヲ以テ緊要ト考フルナリ如何トナ
 レハ該歲額ハ印度ニ於テ鐵道ノ如キ貿易ヲ盛ナラシムル事業
 ノ増スルハ從テ歐洲產物ノ需要ヲ増加スルヲ証スルニ足ルカ
 故ナリ又夕左ノ該歲額ノ記載ニ由リテ年ヲ逐テ速ニ盛大ニ至
 ル所ノ外國貿易ノ利益ノ大ナルヲ知ルヲ得ヘシ

輸出

開設鐵道里數	英里	一千八百五十二年乃至五十二年	二、二分一
商品	封度	二〇、四六四六三三	
金銀類	全	一、〇五五二二九	
商品金銀類共	全	二一、五一九八六二	
一千八百五十三年乃至五十四年			

開設鐵道里數	英里	七二	
商品	封度	一九三九五	
金銀類	全	一四八三	二九六
商品金銀類共	全	二〇七七八	四三五
一千八百五十四年乃至五十五年			
開設鐵道里數	英里	一七一	
商品	封度	一八九二七	二二二
金銀類	全	一	〇二三
商品金銀類共	全	二〇一九四	二五五
一千八百五十五年乃至五十六年			
開設鐵道里數	英里	二七四	四〇一
商品	封度	〇四〇	〇〇〇
金銀類	全	六〇一	一七七

開設鐵道里數	英里	六二五	
商品	封度	二八	四三〇
金銀類	全	八二二	四三〇
商品金銀類共	全	二八二八二	四三〇
一千八百五十八年乃至五十九年			
開設鐵道里數	英里	四三〇	十一分一
商品	封度	四六〇	〇〇〇
金銀類	全	一	四二六
商品金銀類共	全	二六五九三	四二六
一千八百五十七年乃至五十八年			
開設鐵道里數	英里	二八九	四分三
商品	封度	二五三四〇	〇〇〇
金銀類	全	二五三	四二六
商品金銀類共	全	二六五九三	四二六
一千八百五十六年乃至五十七年			
開設鐵道里數	英里	二八九	四分三
商品	封度	二五三四〇	〇〇〇
金銀類	全	二五三	四二六
商品金銀類共	全	二六五九三	四二六
一千八百五十五年乃至五十六年			
開設鐵道里數	英里	二八九	四分三
商品	封度	二五三四〇	〇〇〇
金銀類	全	二五三	四二六
商品金銀類共	全	二六五九三	四二六

商品	金銀類	商品金銀類共	一千八百五十九年乃至六十年	英里	封度	二九	八六〇	〇〇〇
商品	金銀類	全	全	全	全	三〇	六六九	四二七
開設鐵道	英里	封度	二七	九六〇	〇〇〇	八三六	四〇一	
商品	金銀類	全	全	全	全	二八	七八九	〇〇七
商品金銀類共	全	全	全	全	全	二八	七八九	〇〇七
一千八百六十年乃至六十年	英里	封度	三一	九七〇	〇〇〇	一五八一	二分一	
開設鐵道里數	英里	封度	三一	九七〇	〇〇〇	一五八一	二分一	
商品	金銀類	全	全	全	全	三四	一八九	五四九
商品金銀類共	全	全	全	全	全	三四	一八九	五四九

商品	金銀類	商品金銀類共	一千八百六十一年乃至六十二年	英里	封度	二	三五二	二分一
商品	金銀類	全	全	全	全	三六	三二〇	〇〇〇
開設鐵道里數	英里	封度	三七	〇〇三	三五五	六八三	三五五	
商品	金銀類	全	全	全	全	三七	〇〇三	三五五
商品金銀類共	全	全	全	全	全	三七	〇〇三	三五五
一千八百六十二年乃至六十三年	英里	封度	四七	八六〇	〇〇〇	四八	九七一	一四〇
開設鐵道里數	英里	封度	四七	八六〇	〇〇〇	四八	九七一	一四〇
商品	金銀類	全	全	全	全	四八	九七一	一四〇
商品金銀類共	全	全	全	全	全	四八	九七一	一四〇
一千八百六十三年乃至六十四年	英里	封度	六五	二九六二	二分一	六二五	〇〇〇	
開設鐵道里數	英里	封度	六五	二九六二	二分一	六二五	〇〇〇	
商品	金銀類	全	全	全	全	六五	二九六二	二分一
商品金銀類共	全	全	全	全	全	六五	二九六二	二分一

商品金銀類共	全	五四	四五五	五八〇
開設鐵道里數	英里	四	七六六	
商品	封度	五二	四七〇	〇〇〇
金銀類	全	一〇	四二	三五三
商品金銀類共	全	五三	五一二	三五三
開設鐵道里數	英里	五	〇七二	
商品	封度	五五	三三五	〇〇〇
金銀類	全	二	二二〇	七六五
商品金銀類共	全	五七	五五五	七六五
開設鐵道里數	英里	五	三六五	四分三
一千八百七十二年乃至七十三年				

商品金銀類共	全	六四	六八五	六四二
開設鐵道里數	英里	五	六七一	二分一
商品	封度	五五	二三〇	〇〇〇
金銀類	全	一	三〇八	五七九
商品金銀類共	全	五六	五三八	五七九
開設鐵道里數	英里	六	二〇一	
商品	封度	五四	九八〇	〇〇〇
金銀類	全	一	九五八	五一二
商品金銀類共	全	五六	九三八	五一九
開設鐵道里數	英里	六	二〇一	
一千八百七十三年乃至七十四年				

一千八百七十四年乃至七十五年

開設鐵道里數

商品

金銀類

商品金銀類共

一千八百七十五年乃至七十六年

開設鐵道里數

商品

金銀類

商品金銀類共

一千八百七十六年乃至七十七年

開設鐵道里數

商品

英里

封度

全

全

六
四九七
四分一

五六
三六〇
〇〇〇

一
六二五
三〇九

五七
九八五
三〇九

英里

封度

全

全

六
九四九
四分三

五六
二一〇
〇〇〇

二
二〇〇
二三六

五八
四一〇
二三六

英里

封度

六
〇一三
〇〇〇

七
三二六
二分一

金銀類

商品金銀類共

全

全

四
〇二九
八九八

六五
〇四二
八九八

大藏省

輸入

一千八百五十二年乃至五十三年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品		一〇	一六
金銀類		〇七〇	九〇二
商品金銀類共		八三一	二三八
全		八六一	四八〇
一千八百五十三年乃至五十四年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品		七二	一〇
金銀類		〇七〇	四
商品金銀類共		八六三	八七一
全		九五六	九四二
全		八一九	一四

一千八百五十五年乃至五十六年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品		二七四	一四
金銀類		四三〇	二
商品金銀類共		七〇四	一四
全		九二七	七七〇
一千八百五十六年乃至五十七年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品		四三〇	一三
金銀類		九四九	一一
商品金銀類共		一三七八	二五
全		二八八	二四六
一千八百五十七年乃至五十八年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品		四三〇	一四
金銀類		九四九	一四
商品金銀類共		一三七八	二八
全		二八八	四一三

六
歲
翁

商品金銀類共	全	二八六〇八	六九七
開設鐵道里數	英里	四三〇	二分一
商品	封度	一五	〇〇〇
金銀類	全	一五	四三六
商品金銀類共	全	三一〇九〇	四三六
開設鐵道里數	英里	六二九	
商品	封度	二一	〇〇〇
金銀類	全	一二	〇七
商品金銀類共	全	三四五四七	〇七一
開設鐵道里數	英里	八三六	四分一
一千八百五十九年乃至六十年			

商品金銀類共	全	四〇六二一	九六三
開設鐵道里數	英里	一五八一	二分一
商品	封度	二三	〇〇〇
金銀類	全	一〇	〇七七
商品金銀類共	全	三四一七二	〇七七
開設鐵道里數	英里	三五一	二分一
商品	封度	二二	〇〇〇
金銀類	全	一四九五	〇八五
商品金銀類共	全	三七二七一	九八五
開設鐵道里數	英里	二	
一千八百六十一年乃至六十二年			

一千八百六十二年乃至六十三年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	二	二	二
金銀類	二	二	二
商品金銀類共	二〇	五〇	八
一千八百六十三年乃至六十四年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	二	二	二
金銀類	二	二	二
商品金銀類共	二	二	二
一千八百六十四年乃至六十五年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三
一千八百六十五年乃至六十六年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三
一千八百六十六年乃至六十七年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三
一千八百六十七年乃至六十八年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三

一千八百六十二年乃至六十三年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	二	二	二
金銀類	二	二	二
商品金銀類共	二〇	五〇	八
一千八百六十三年乃至六十四年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	二	二	二
金銀類	二	二	二
商品金銀類共	二	二	二
一千八百六十四年乃至六十五年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三
一千八百六十五年乃至六十六年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三
一千八百六十六年乃至六十七年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三
一千八百六十七年乃至六十八年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	三	三	三
金銀類	三	三	三
商品金銀類共	三	三	三

開設鐵道里數	英里	四〇一六	二分一
商品	封度	五七〇五	〇〇〇
金銀類	全	一一七七五	三七四
商品金銀類共	全	四七八〇	三七四
一千八百六十八年乃至六十九年			
開設鐵道里數	英里	四二六一	
商品	封度	三五九九〇	〇〇〇
金銀類	全	一五五九五	九五四
商品金銀類共	全	五一一四五	九五四
一千八百七十九年乃至七十年			
開設鐵道里數	英里	四七六六	
商品	封度	三二九五五	〇〇〇
金銀類	全	一三九五四	八〇七

開設鐵道里數	英里	五〇七三	
商品	封度	三四四七〇	〇〇〇
金銀類	全	三九四四四	八二三
商品金銀類共	全	三九四一四	八二三
一千八百七十一年乃至七十二年			
開設鐵道里數	英里	五三六五	四分三
商品	封度	三二〇九〇	〇〇〇
金銀類	全	一一五七三	八一三
商品金銀類共	全	四三六六三	八一三
一千八百七十二年至七十三年			
開設鐵道里數	英里	五六七一	二分一

一千八百七十三年乃至七十四年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	六	三三	三六
金銀類	二〇一	八三五	四三一
商品金銀類共		〇〇〇	五八五
開設鐵道里數			
英里	六	四九七	四四
封度	二二〇	〇〇〇	三六一
全		〇〇〇	〇四七
商品	八	一四一	四四
金銀類	一四一	〇四七	三六一
商品金銀類		〇四七	〇四七

一千八百七十五年乃至七十六年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	六	九四九	四三
金銀類	〇〇〇	〇〇〇	八一五
商品金銀類共		〇〇〇	七二二
一千八百七十六年乃至七十七年			
開設鐵道里數	英里	封度	全
商品	七	三二六	四八
金銀類	二〇一	四四〇	八一六
商品金銀類		〇〇〇	一二〇

鐵道ヲ建設シタルヨリ印度輸出入貿易ノ毎年増進シタルハ
 既ニ明カナリト雖氏就中鐵道運賃ノ廉價ニテ貿易ヲ鼓舞スル
 ニ至リシ地方ニ於テ殊ニ其増進ノ著シキヲミルナリ

抑モ印度政府ノ此圖ニ於テ鉄道ノ建築ヲ議決シタルノ目的ハ
物産ヲ増殖シ以テ國ノ富實ヲ増サント欲スルニ外ナラスト雖
モ鉄道運賃ノ高價ナル中ハ到底其目的ヲ達ス能ハサルヤ明ナ
リ
夫レ我輩ノ北印度ト運輸ヲ通スルノ道ハ只「シ、アイ、ピ」鉄道
ノ一アルノミ而シテ該鉄道會社ノ運賃ハ甚シク高價ナルカ故
ニ西印度ヲシテ該鉄道ヲ此國ニ開設シタルカ為メ吾人ノ希望
シタル便益ヲ得サラシムルニ至レリ
人若シ該會社ノ近頃穀物ノ運賃ヲ減額シタルカ為メ大ニ共貨
易ヲ増進シタルノ事實ヲ知ルキハ我輩ノ右ニ説ク所ノ主義ノ
確實ナルヲ証スヘシ
一千八百七十五年九月ニ「シ、アイ、ピ」鉄道會社ハ中央諸列ヨ
リ穀物ヲ運輸スルノ賃銀ヲ減シテ每一里ニ一噸ニ付テ五「ピ」

「ス」半ト為セリ是レ其前運輸賃ヨリ減少スルヲ每百ニ付キ三割
ニ當レリ此ノ如ク減額スルモ「シ、アイ、ピ」鉄道會社ノ運賃ニ比較
スル片ハ猶ホ著シク高價ナリ
然レモ其減額ノ影響ハ直ニ貿易ヲ増進セリ一千八百七十二
會計年度ニ於テ「ボンベ」ヨリ輸出シタル小麦ノ秤量ハ七万四
千八百六十七「ト」ナリシカ一千八百七十三年會計年度ニ至
リ輸出稅ヲ廢シタルカ為メ四十三万四千四百五十三「ト」ニ
増シ一千八百七十四年會計年度ニ六十三万三千六百八十一「ト」
トニ増シ同シク七十五年會計年度ニ八十三万七千八百六十
九「ト」トニ増シ一千八百七十六年會計年度ニ一百二十三万四
千〇九十四「ト」トニ増セリ同シク七十七年會計年度ニ於テハ
一百一十五万九千四百四十三「ト」トナリ
種物運賃ノ減額シタルヨリ其貿易ヲ増進シタルハ猶ホ大ナリ

トス一千八百七十五年八月ニ政府ハ種物ノ輸出税ヲ廢シ、
アイ、ピ、鐵道會社ハ其運賃ヲ減額セリ此レカ為メ一千八百七
十六年三月三十一日ニ終ル所ノ六ヶ月ノ間ニ亞麻仁、油菜種、
ル、油ノ輸出ハ一百五十五万九千三百六十九トノ多ニ至
ル
然ルニ前年ノ六ヶ月間ニ輸出シタルモノハ終カ五十九万二千
三百七十三トナリ「ボンベ」ヨリ種物輸出ノ歲額ハ其後少
シモ減少シタルヲミズ一千八百七十六年會計年度ニ於テハ其
輸出額ハ二百七十五萬四千九百二十二トナリシカ同シク
七十七年會計年度ニ於テハ三百一十七万九千四百七十五ト
トニ増セリ
右輸出ノ額高ヲ計セタルニ當リ一千八百七十六年及ヒ七十七
年ノ兩會計年度ニ於テハ穀物ノ收穫甚タ少ナシ又タ政府ガ南

印度ノ飢饉ノ禍ニ罹リタル地方ニ鐵道ニテ穀物ヲ運送シタル
カ為メ西印度ヨリ輸出スヘキ穀物ノ額高ノ大ニ減少シタルト
ヲ記憶セサルベカラズ
夫レ「アイ、ピ」鐵道會社ノ運賃ハ猶ホ甚タ高價ナリト云フ
ヘシ今若シ該會社ノ之レヲ減額スルハ必ラス一層貿易ヲ增
進スヘシト信スルナリ
上ニ開陳シタル運賃減額ノ為メ輸出貿易上ニ及ボシタル事實
ヲ知ルハ則チ譬ヘ此國ニ於テ數多ノ鐵道アリト雖モ若シ其
物産ノ運賃ヲ適當ノ度ニ減額シ以テ其鐵道ヲ建築シタル各地
方ノ物産ヲ容易ニ運輸セシムルニ至ラサルハ貿易ヲ増進シ
國ノ富實ヲ増スニ足ラサルヲ証スルニ足ル
今世界ノ地圖ヲ開テ之ヲ展觀スルハ印度ハ富國ノ元質ヲ有
スル良土ナリト雖モ他ノ各國ニ比較シテ鐵道建設ノ甚シク少

ナキヲ忽チ知ルヲ得ヘシ

鐵道輸運ノ利タルヤ印度ノ輸出貿易ヲ増進スルノミナラス又
シ印度英國ノ一般貿易ヲ盛ナラシムルニ至ルヘシ而シテ右ニ
論セシ如クボンベリトデルヒノ間ニ大鐵道ヲ建設スルニ當
リ第一ニ着手セサルヘカラサルモノハ則チアソダツドトデル
ヒノ間ノ鐵道是ナリ

而シテ此鐵道ハ宜シク五フーシ六インチノ製ニ依ルヘシ其故
如何トナレハ該地方ハ輸出スヘキ物品ノ多キハ勿論又クボン
ベリ港ノ如キハ最モ上印度ノ生産地及ヒ英國ニ近キカ如キ天
然ノ利ヲ有スル港ナルカ故ニ英領印度ノ輸出品ノ大半ハ此港
ヨリ積出シ以テ生産者及ヒ消費者ノ利益ヲ増スニ至ルヘキカ
故ナリ

一千八百七十四年會計年度ニ英領印度ヨリ輸出シタル小麦ノ

總額ハ一百〇六万九千〇七十六クロートニシテ一千八百七十五
年會計年度ニハ二百四十九万八千一百八十五クロートナリ

而シテ一千八百七十六年會計年度ニハ五百五十八万三千三百
三十五クロートナリシガ一千八百七十七年會計年度ニハ六百三
十四万〇百五十クロートニ増セリ

又ク亜麻仁、油菜種ノテハ油種ノ輸出モ大ニ増加セリ

今若シボンベリヨリデルヒトマデ直線ニ鐵道ヲ開設スルハ
ボンベリヨリデルヒトマデノ距離ハ大ニ減少シカルカツクヨ
リハ一層近キニ至ルヘシ如何トナレバデルヒトヨリ直線ニエ
ゼノール及ヒアソダツトヲ經テボンベリニ至ルノ距離ヲ以
テジャブルポール及ヒアソダツトヲ經テ廻行スルニ比較ス
ルハ殆ント三百五十英里ヲ減少スレハナリ
此ヲ以テ右鐵道ヲ開設スルハ天然ノ利アルヲ以テ必ラス英

領印度ヨリ輸出スヘキ穀物ノ大半ハ此港ニ輸送シ從テ若シク
此國ノ繁榮ヲ致スヘキヤ疑ヲ容レサルナリ
然ト雖モ此利タルヤ其鐵道ヲシテ廣同幅ノ制ニ依ラシメサル
中ハ得ル能ハサルナリ例之ハ「バンジャツ」ヨリ運輸スル穀物
ノ「デルヒ」ニ於テ之レヲ積換ヘ又「アジャメル」或ハ「アメダ
バツド」ニ至リテ再ヒ之レヲ積換ユルガ如キ「アラバ」為ニ無益
ノ費用ヲ致シ空シク光陰ヲ費シ或ハ商品ヲ損害シ或ハ意外ノ
危險ヲ生セサルヲ保シ難シ是レ此港ノ貿易ノ繁榮ヲ害スルヤ
最モ甚シキニ非スヤ
西印度ノ商法會議所ハ屢々政府ニ向テ「ボンベ」ヨリ「デルヒ」
ニ至ル間ニ廣同幅ノ鐵道ヲ開設スルハ必ス著シク此國ノ輸
出貿易ヲ増進スヘシ而シテ其開設スヘキ鐵道タルヤ「フット
六」イン「チ」ノ廣幅トナスニ非サレハ此國ノ輸出貿易ノ運輸ニ適

セサル「フ」ヲ建議セリ

又タ此鐵道ヲ以テ「北」タルヒ「」ニ於テ東印度廣幅鐵道ト連絡
シ西南ハ「ア」メダ「バツド」ニ於テ「ビ」ビ「」及「ビ」リ「ア」廣幅鐵道
ト一致セシムベキ「フ」ヲ懇懇セリ

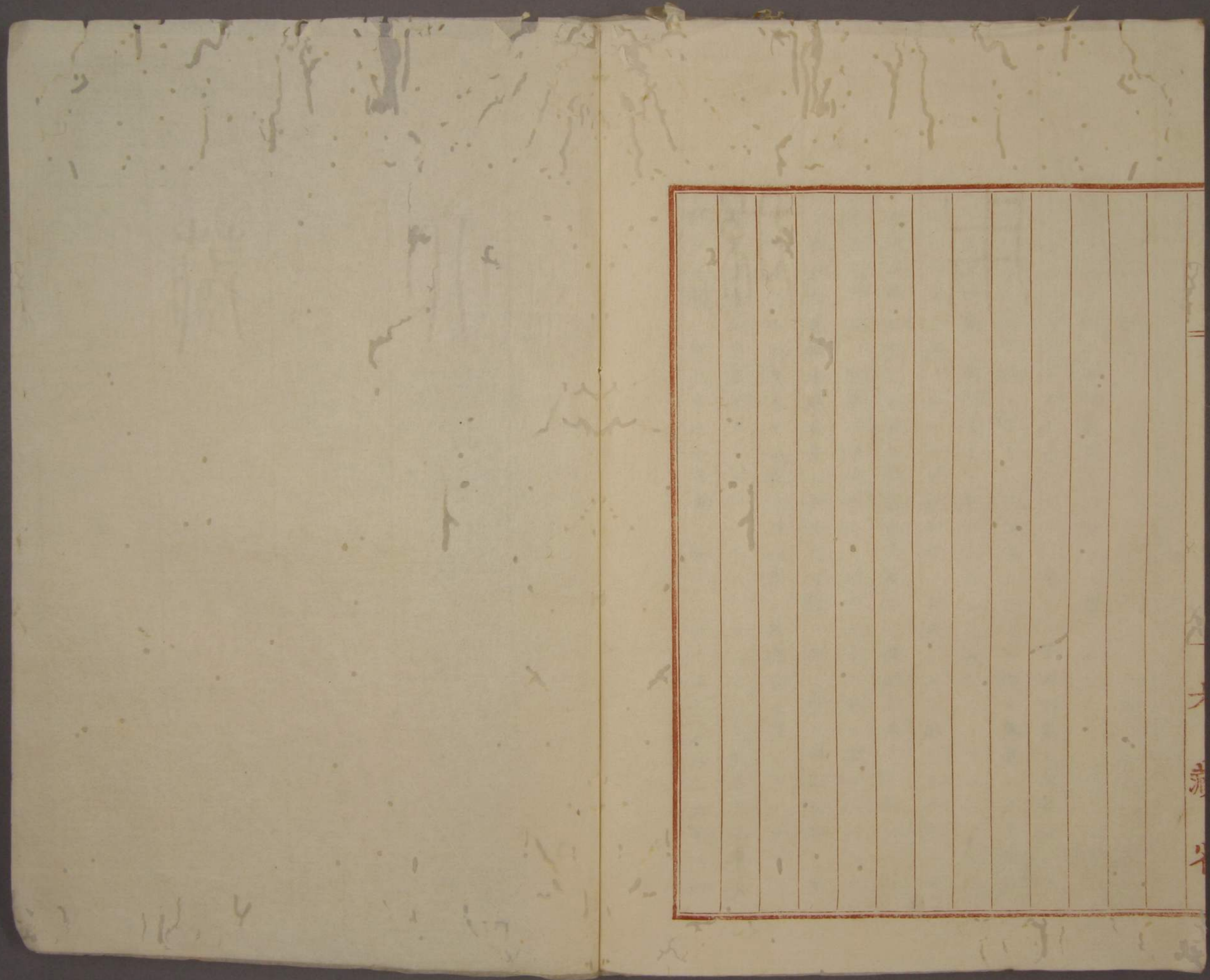
然ト雖モ惜ムラタハ印度政府ハ此主義ニ付テ直接ノ利害ヲ有
セサルニ三ノ狹幅鐵道主張者ノ説ニ惑ハサレ此國貿易上永遠
ノ利益ヲ犧牲ニシテ「デルヒ」ト「ア」メダ「バツド」ノ間ニ狹幅鐵道
ヲ開設セントスルニ至レリ

我カ商法會議所ハ斯ノ如ク廣狹不同ノ鐵道ヲ開設スルハ必
ラス實際ニ非常ノ災禍ヲ來スヲ以テ「ア」ゼ「ノ」ル及ヒ「デルヒ」
ノ間ノ鐵道ノ如キ狹幅ノ制ヲ以テ既ニ開設セルモノモ又タ久
シカラズシテ廣幅ノ鐵道ニ改築セサルヲ得サルニ至リ以テ無
益ノ國財ヲ費ス「ア」ルヘシト信スルナリ

如何トナレハ狹幅鉄道ハ此地方ノ貿易ノ目的ヲ達スルニ充分
ナラサルカ故ナリ其故ニ又タアゼノールノ南ニ開設スル鉄道
ヲ狹幅ノ制ニ為スハ無益ニ國財ヲ費スノミナラス大ニ英領印
度及ヒ上印度ノ貿易ヲ害スルニ至ルヘキヲ信スルナリ
故ニ英商法會議所ハ切ニ右狹幅ノ鉄道ヲ速ニ改築シ「ボンベイ」
ト「デルヒ」ノ間鉄道ヲレテ全ク同廣幅鉄道トナサンコトヲ希望
スルナリ

前年ノ大飢饉ノ禍害タルヤ政府若シ當時ニ米國及ヒ歐列各國
ノ實例ニ倣ヒ鉄道ヲ開設シテ各地方運輸ノ便ヲ達スルルハ必
ラス大ニ其禍害ヲ免カルコトヲ得タルヘシト信ス
一千八百六十九年ノ大飢饉ハ獨リ「ラジプタナ」ニ於テ一百五十
万人ノ生靈ヲ餓死セシムルニ至レリ同年又タ家畜ノ死亡シタ
ルヤ大牧ノ代理官ノ云フ所ニ依レハ耕耘地面積ノ半ハ耕耘下

種スル能ハサルカ為メ荒蕪ノ地トナルニ至リ人民ノ大半ハ他
國ニ遷移シ其數千スルヲアゼノールノルワラ地方ノ小舎及
ヒ「ムツ」^チ「ア」^ドラ等ニ於テ終ニ其露命ヲ繋ケリトナリ
飢饉救濟事務取扱委員ハ皆其大飢饉ノ時ニ當リ鉄道運輸ノ其
禍害ヲ防クニ非常ノ功アリシヲ知ラル、ナラン曾「ラジプタ
ナ」大飢饉ノ時ニ小麦、玉蜀黍及ヒ其他ノ穀物ノ多ク「ラゼラ」^ト
ニアリシト雖モ之レヲ飢饉地方ニ運輸スルノ道ナキカ為メ少
シモ其飢饉ヲ救濟スルノ用ヲ為サ、リシ
同廣幅ノ制ヲ以テ「ボンベイ」ト「デルヒ」ノ間ニ建築スヘキ鉄道
ニ次テ今開設セサルヘカラサルモノハ中央印度ノ生産地ヨリ
海港ニ通スルヲ鉄道是レナリ



六
清
平

